

静岡県の 新型コロナウイルス性肺炎 中等症Ⅱ以上入院患者の状況

(第9報; 2024年5月6日～10月27日、198例)



静岡県健康福祉部 感染症対策課(感染症管理センター)

静岡県 新型コロナウイルス性肺炎 中等症Ⅱ以上入院患者の調査

- 【背景】 2023年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が五類感染症となり、**新型コロナウイルス感染中の死亡者の迅速な確認が困難**になり、その年代や基礎疾患、主要死因等も把握ができなくなった。
一方で、新型コロナウイルスは**流行している変異株が頻繁に変わる**ので、**その重症化の変化もモニタリング**する必要がある。
- 【目的】 そこで、新型コロナウイルス性肺炎で中等症Ⅱ以上となった入院患者さんや新型コロナウイルスによって脳炎脳症や心筋炎になった入院患者さんの疫学情報を、個人が特定できない範囲で県内病院から提供していただき、**コロナが重症化する年代、ワクチン接種状況、日常生活自立状況、基礎疾患等を集計・分析し、医療機関への情報提供や県民への注意喚起・高齢者のコロナワクチン接種勧奨**等に役立てる。
- 【方法】 協力していただける県内病院が、**新型コロナウイルス性肺炎中等症Ⅱ以上の患者さんの年代・性別、接種回数等、日常生活自立度（パフォーマンス・ステータス）、基礎疾患等**をGoogle・フォームに入力し、県が定期的（夏と冬の流行期の前半経過時点と終了時点）に集計・分析し、医療機関への情報提供及び県民への公表を行う。

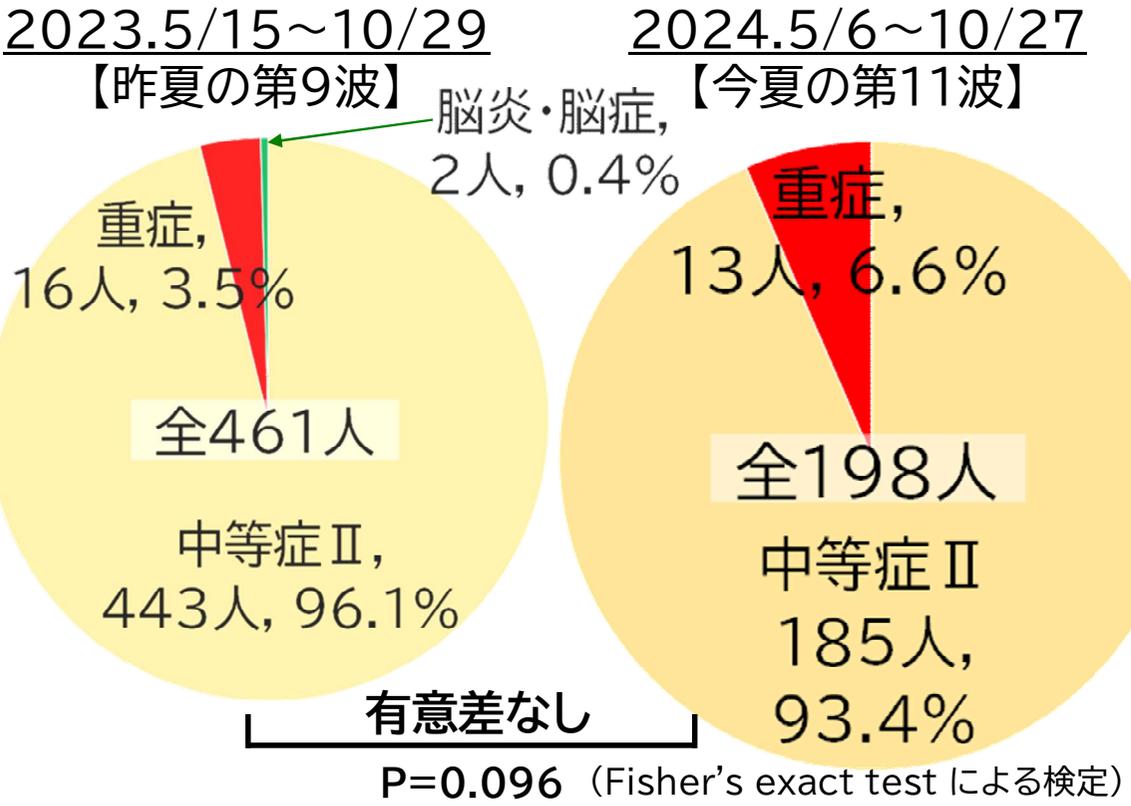
新型コロナウイルス感染症の肺炎の重症度分類（医療従事者が判断）

| 重症度 | 症状 | パルスオキシメータの数值 (SpO2) |
|------|---|---------------------|
| 軽症 | 呼吸器症状なし または 咳のみで呼吸困難なし いずれの場合も肺炎所見を認めない | 96%以上 |
| 中等症Ⅰ | 肺炎所見あり 呼吸困難あり | 93.1%~ 95.9% |
| 中等症Ⅱ | 肺炎所見あり 酸素投与必要 | 93%以下 |
| 重症 | 人工呼吸器が必要 ICUに入室 | |

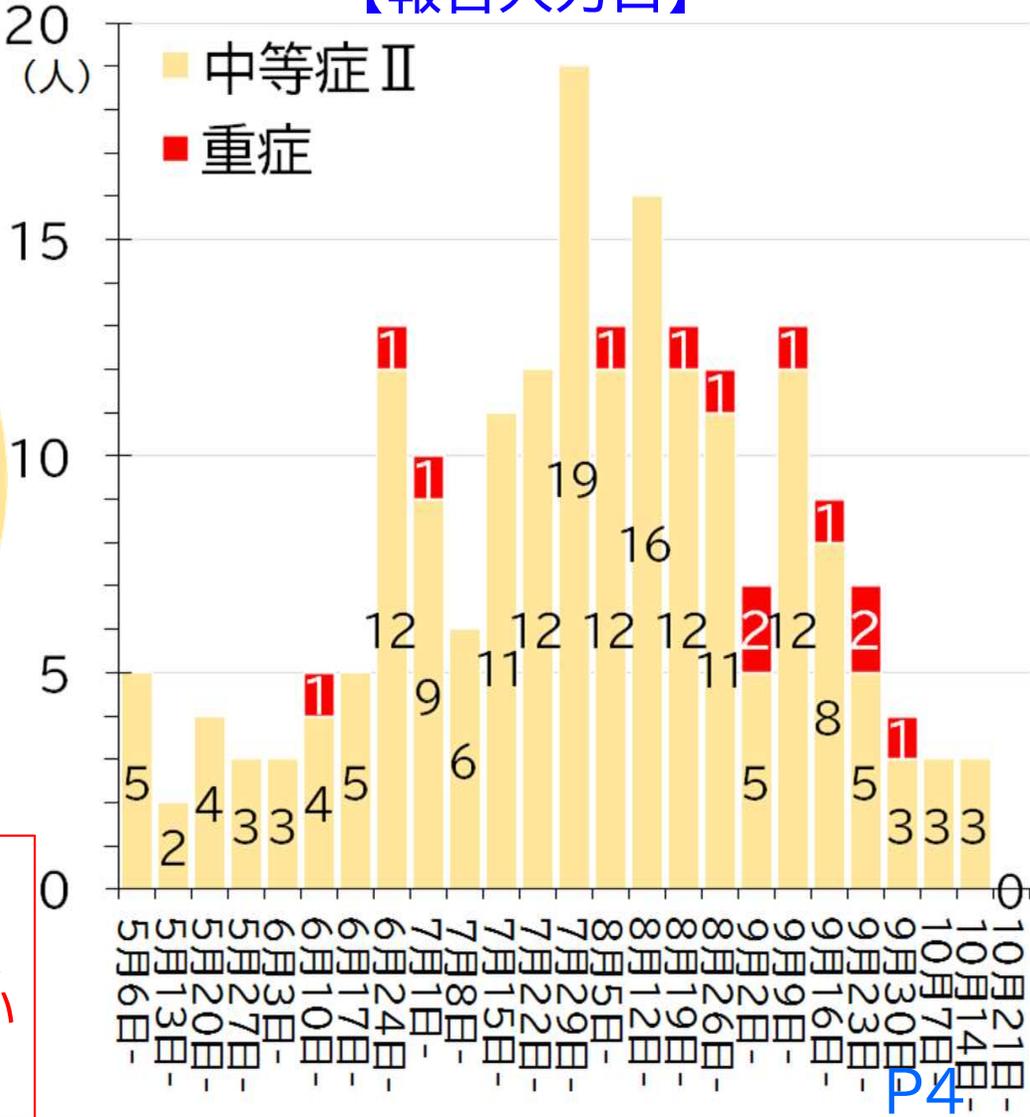
調査対象
他は脳炎脳症、心筋炎

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 (2024.5/6~10/27) ① 中Ⅱ/重割合・週

【中等症Ⅱと重症等の割合】

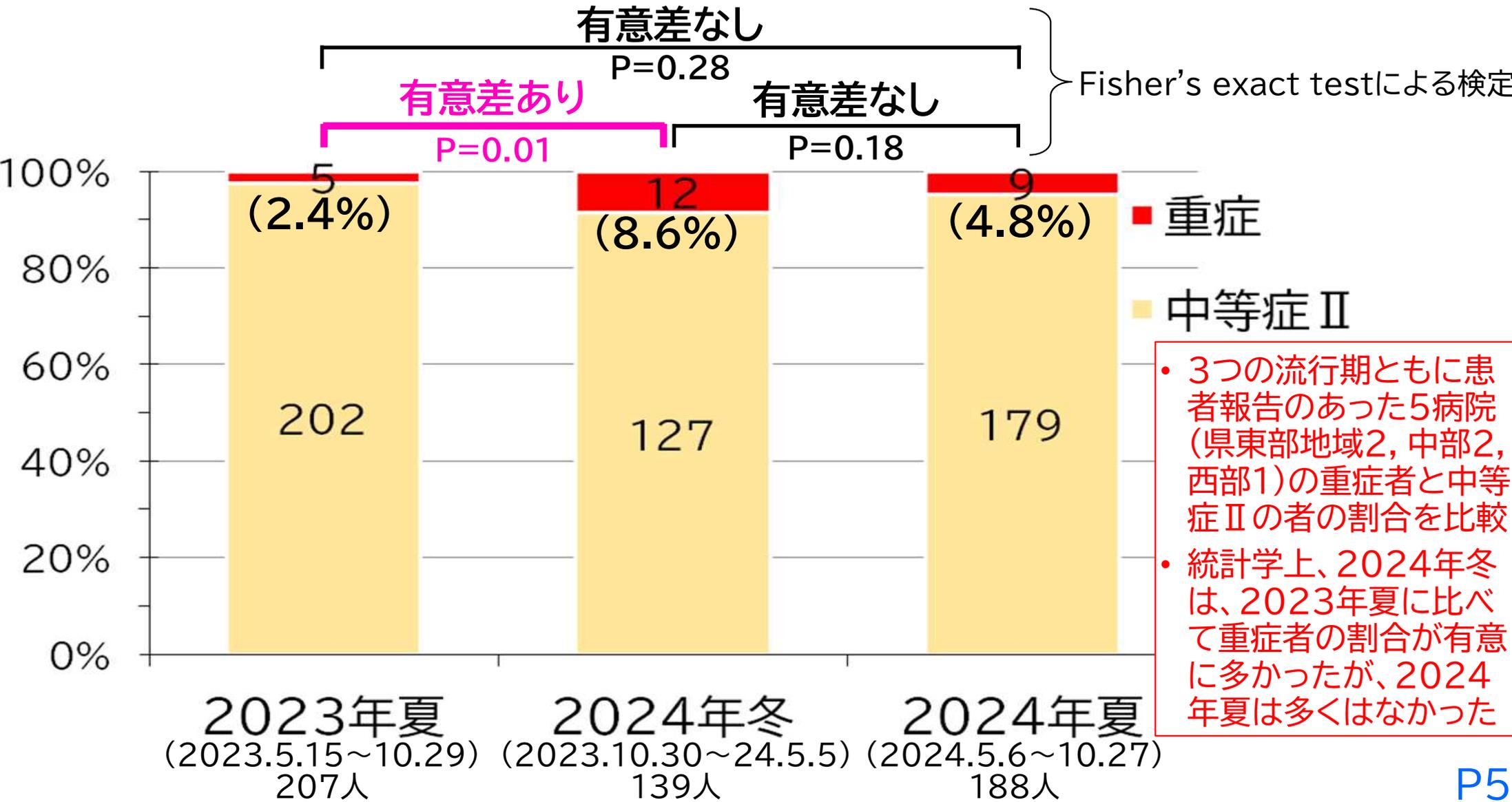


【報告入力日】



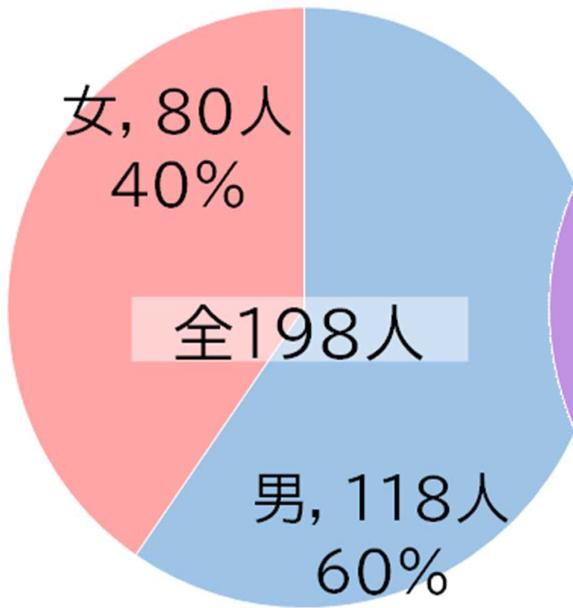
- ・今回期間中に報告していただいたのは県内8病院
- ・報告患者のうち、中等症Ⅱが93.4%と大半を占め、重症者は6%台で、昨年夏の第9波より約3割と多い
- ・今回、県内で流行した変異株は、KP.3系統が主流

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 5類移行後3流行期の中等症Ⅱ・重症の割合推移

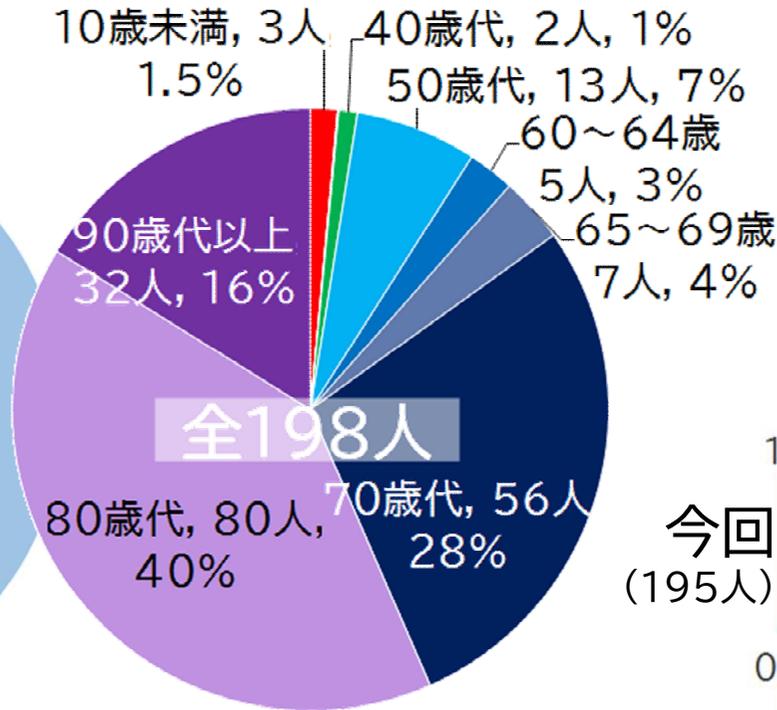


静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ② 性・年代

【性別】

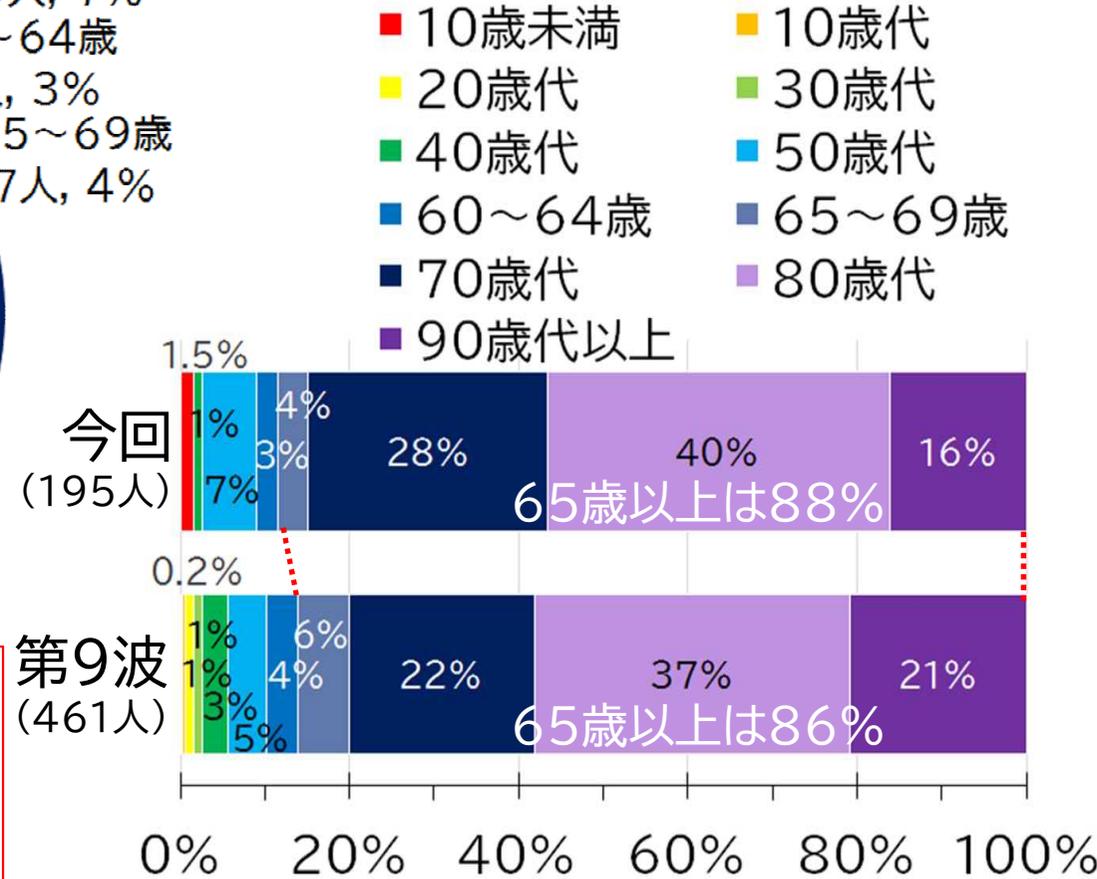


【年代分布】



【年代分布の 昨夏第9波との比較】

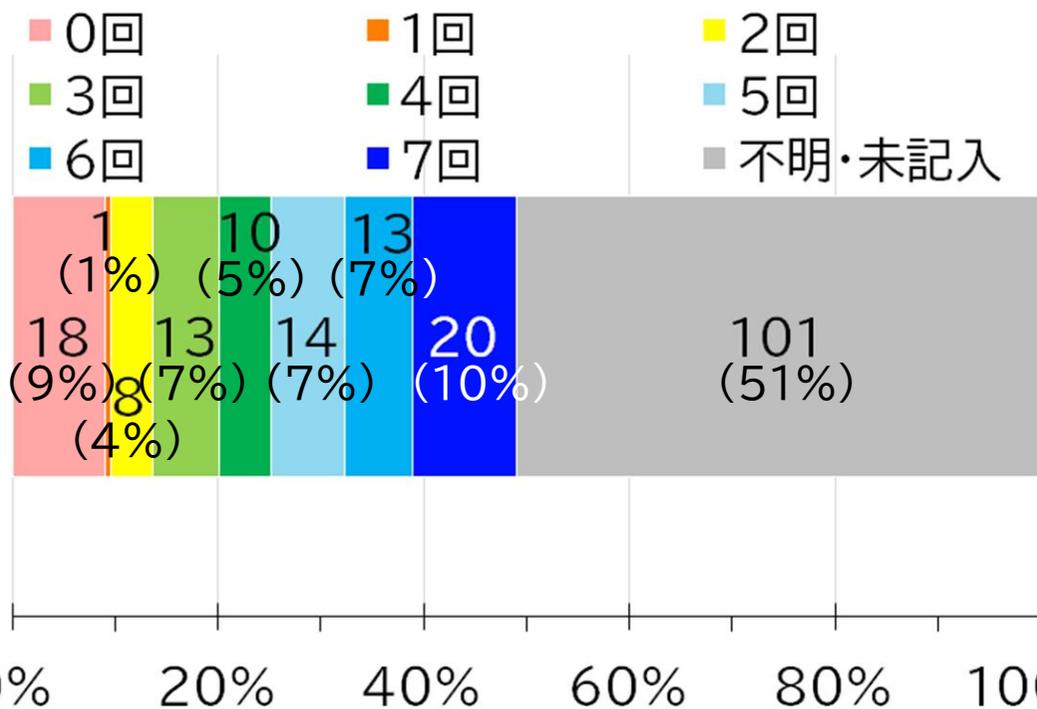
※2023.5/15~10/29



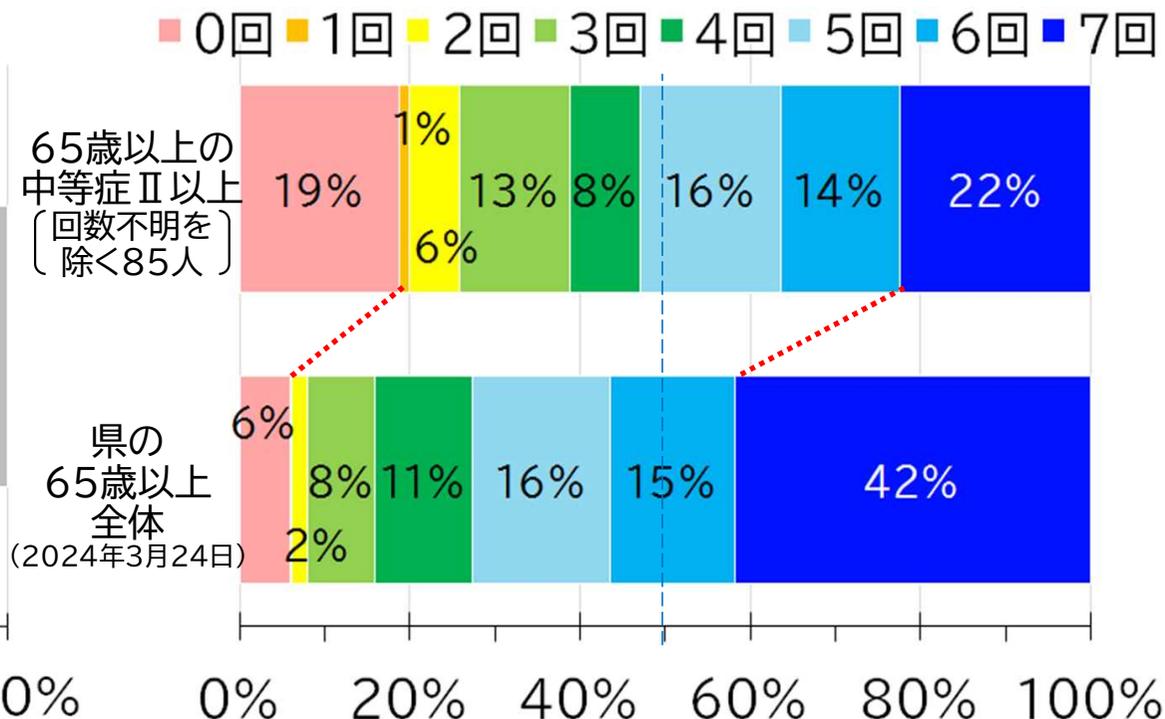
- 男性が60%を占めた(女性:男性≒1:1.5)
- 80歳代が最多で40%を占めた
- 65歳以上が175人で、88%を占めた
- 第9波と比べ70歳代が6割増加(22%→28%)

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ③ 接種回数

【全年代の接種回数】



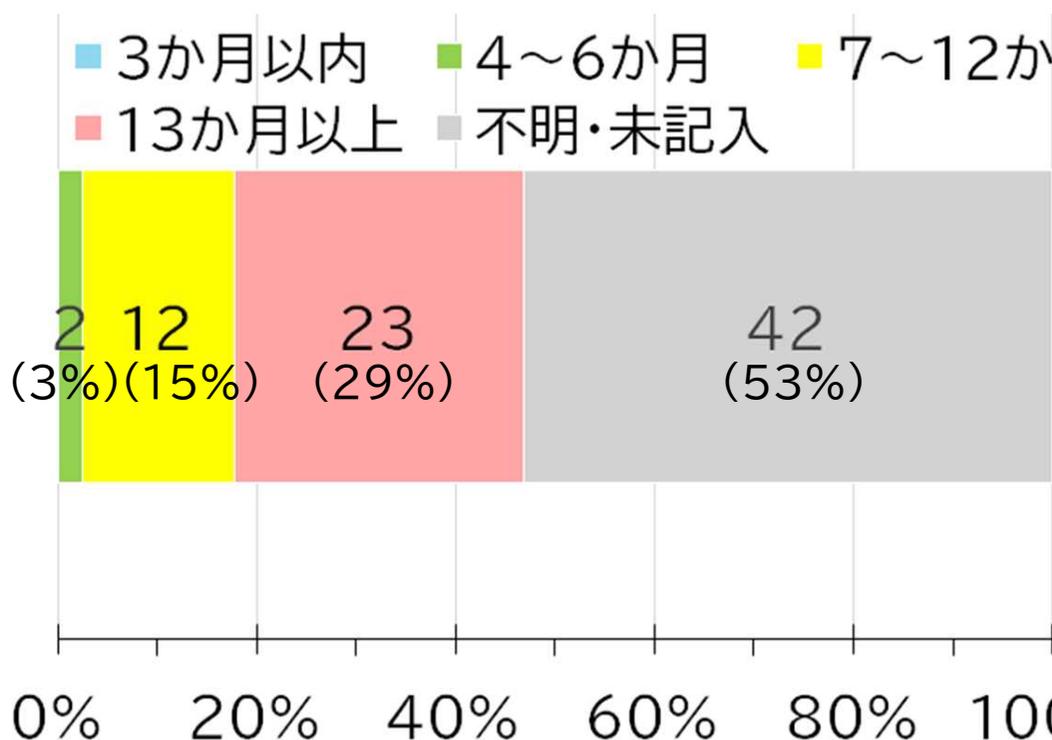
【65歳以上での県民全体との比較】



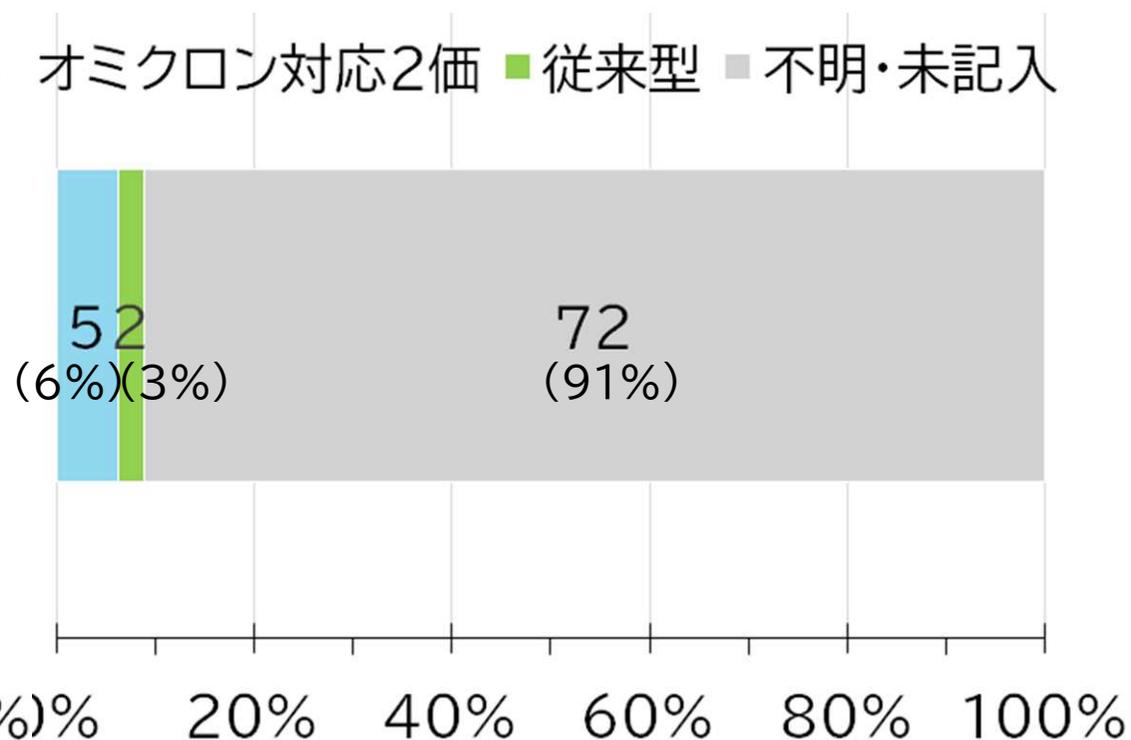
- 中等症Ⅱ以上の人全体で、接種回数の割合は多い順に7回(10%)、0回(9%)、5回(7%)
- 65歳以上の中等症Ⅱ以上の人で接種回数判明者は、県の65歳以上全体と比べて、未接種者(0回接種)が多く(19%対6%)、7回接種者が少ない(22%対42%)
- 65歳以上の中等症Ⅱ以上の人々の接種回数中央値は5回、県の65歳以上全体は6回

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ④ 最終接種時期・ワクチン種類

【最終接種からの期間】



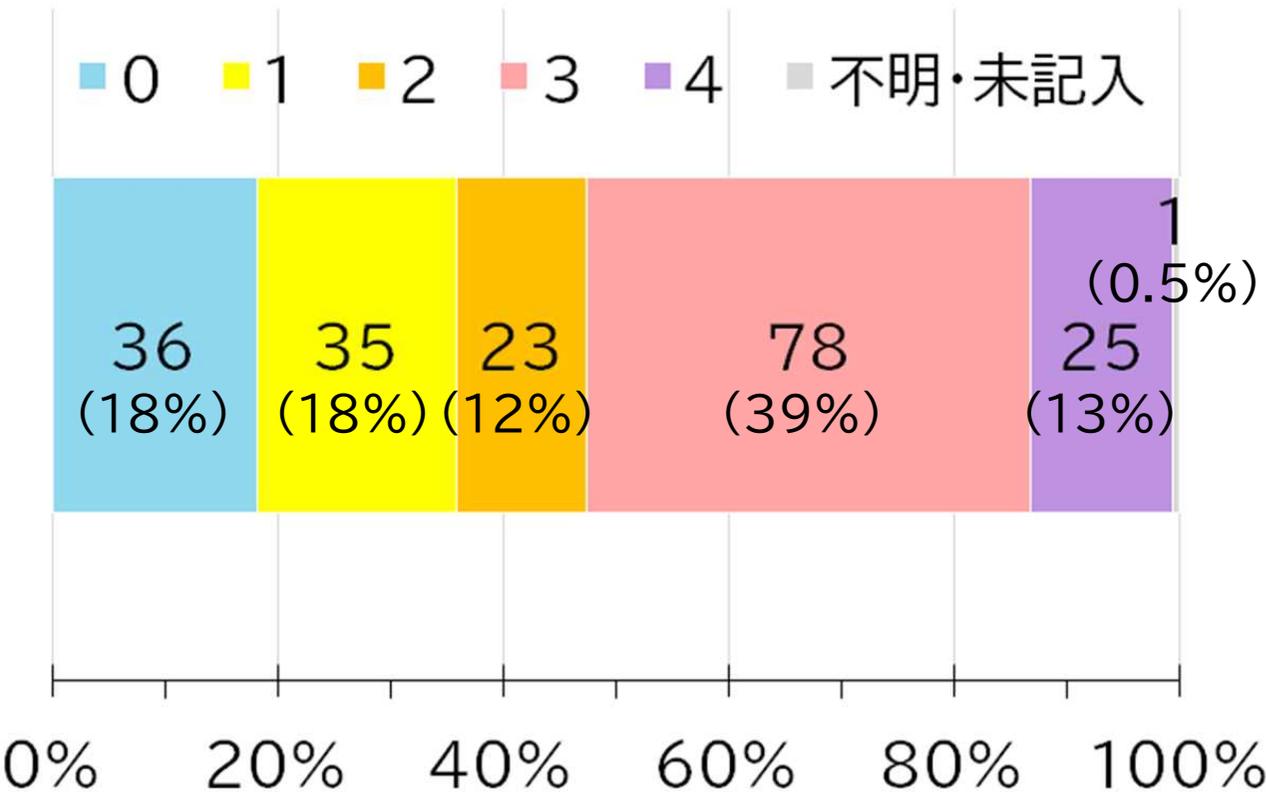
【最終接種ワクチンの種類】



• 不明が非常に多いが、判明している人では、最終接種からの期間は13か月以上が多く(判明者の62%)、3か月以内はなかった

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑤ り患前の日常生活自立度の状況

【コロナり患前の日常生活自立度(パフォーマンス・ステータス;PS)】

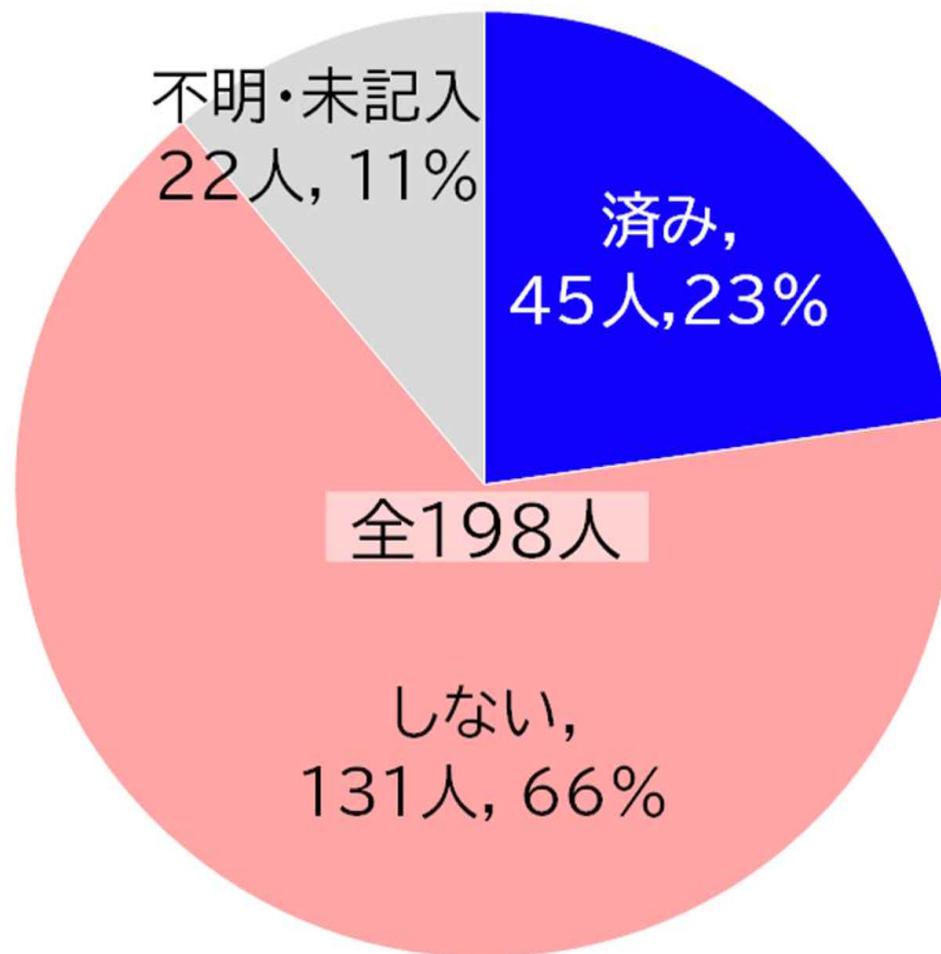


- 0;まったく問題なく活動でき、日常生活が制限なく行える。
- 1;肉体的に激しい活動は制限されるが、歩行可能で、軽作業や座っての作業は行うことができる。例:軽い家事、事務作業
- 2;歩行可能で、自分の身のまわりのことはすべて可能だが、作業はできない。日中の50%以上はベッド外で過ごす。
- 3;限られた自分の身のまわりのことしかできない。日中の50%以上をベッドか椅子で過ごす。
- 4;まったく動けない。自分の身のまわりのことはまったくできない。完全にベッドか椅子で過ごす。

• 何らかの日常生活の活動制限(PS 1以上)がある人が、約8割を占めた

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑥ ゲノム解析検体提出状況

【鼻咽頭拭い液等検体のゲノム解析用提出】



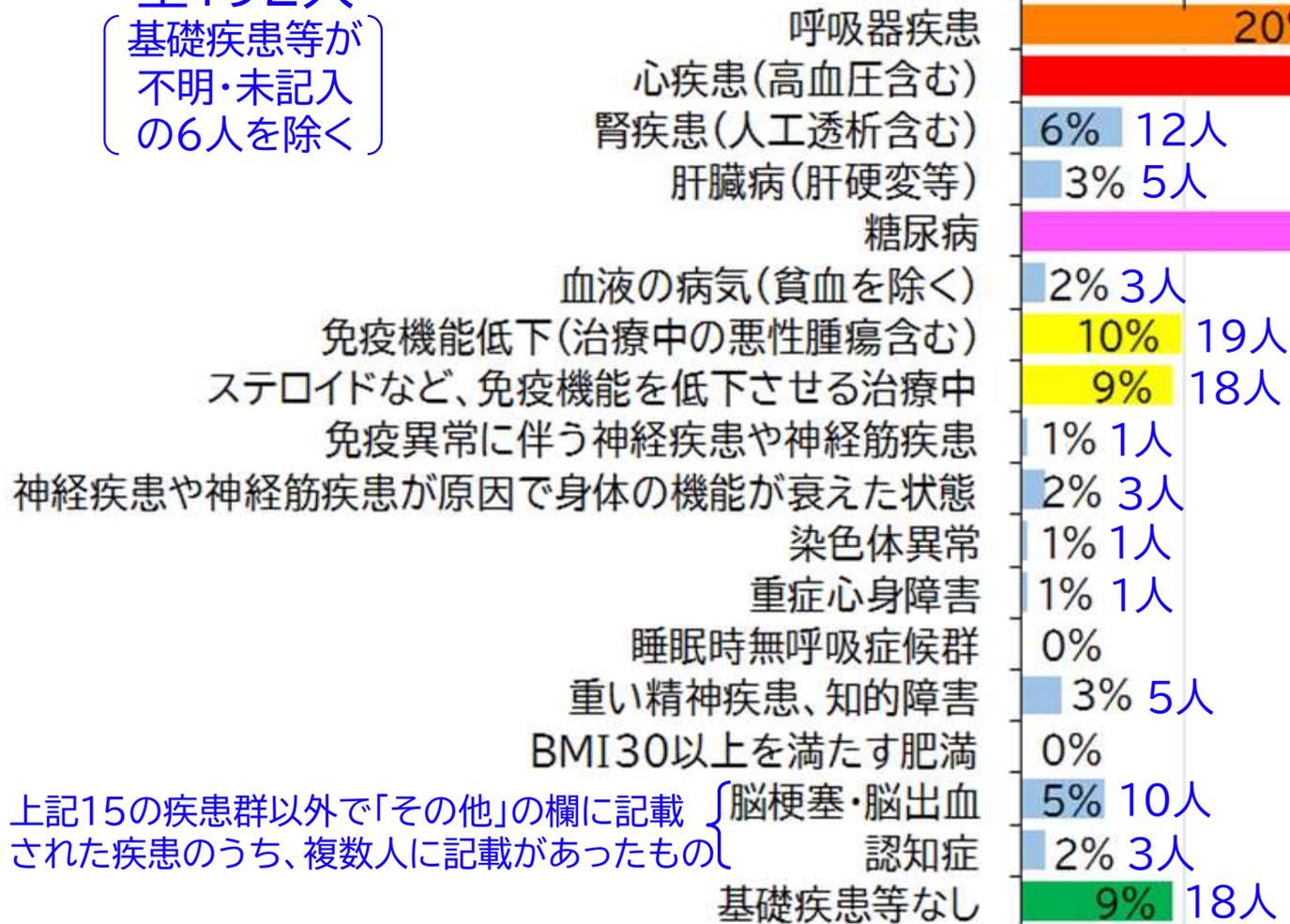
- ゲノム解析への検体提出は、約4分の1であった

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑦ 基礎疾患等重症化リスクの状況

【ワクチン接種が勧奨される基礎疾患等、重症化リスクの状況(複数回答)】

全192人
 (基礎疾患等が不明・未記入の6人を除く)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



- 上位3疾患は、心疾患61%>糖尿病24%>呼吸器疾患20%
- 次いで、治療中のがんを含む免疫機能低下10%、免疫を低下させる治療中9%、腎疾患6%、

上記15の疾患群以外で「その他」の欄に記載された疾患のうち、複数人に記載があったもの

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 結果 ⑧ 65歳未満で接種回数判明12人の状況

| 年代 \ 接種回数 | 0回 | 1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 | 6回 | 7回 |
|------------|------------|----------|---|------------|------------|------------|------------|----------|
| 10歳代 以下 | | | 【略号等】男 女 PS0~4;パフォーマンス・ステータス0~4(数字大ほど自立低) 心;心疾患(高血圧含む)、糖;糖尿病、免;免疫機能低下状態、精;重い精神疾患・知的障害、呼;呼吸器疾患、肝;肝臓病、なし;基礎疾患等なし | | | | | |
| 20歳代 | | | | | | | | |
| 30歳代 | | | | | | | | |
| 40歳代 | | | | | | | | |
| 50歳代 | PS0 心,糖 | PS0 肝 | PS3 心 PS0 なし | PS0 呼 | PS0 心,糖 | PS3 心,糖 | PS4 精 | PS3 呼 |
| 60歳代 前半 | | | | PS3 心,精 | PS0 なし | | PS3 心,免 | P12 |

・65歳未満で接種回数が判明している12人のうち、5人(42%)が2回以下の接種回数だった
 ・65歳未満の全23人での多い基礎疾患等は、心疾患8人(35%)、糖尿病4人(17%)、重い精神疾患・知的障害3人(13%)

静岡県 コロナ肺炎中等症Ⅱ以上調査 第9報 結果のまとめ

1. 新型コロナウイルス性肺炎で中等症Ⅱ以上の入院患者さんの年代、ワクチン接種状況、基礎疾患等に変化がないか、5類移行後も追跡するため、県内病院の協力を得て、患者個人が特定されない疫学情報を随時収集し、定期的に集計・分析し、医療機関へ還元、県民へ公表している。
2. 今回の収集期間は2024年5月6日から10月27日の25週間で、8病院から198人の中等症Ⅱ以上の入院患者さんの情報提供に協力いただいた。なお、この期間の県内の変異株はKP.3系統が主流であることが分かっている。
3. 198人中、中等症Ⅱ185人(93.4%)、重症13人(6.6%)であり、昨夏第9波(2023年5月15日～10月29日)の報告患者中の重症者割合3.5%(461人中16人)と比べて約3ポイント増加したが、統計学上は有意な増加ではなかった。
4. 第9波(2023年夏)・第10波(2024年冬)・第11波(2024年夏)の3流行期とも患者報告をいただいた5病院の患者で報告患者中の重症者割合を比較すると、冬の第10波で重症者割合が有意に多かった(約2%・約9%・約5%)。
5. 中等症Ⅱ以上の入院患者さんのうち、男性が118人で60%を占めた。年代は80歳代が最多の80人で40%であり、65歳以上が175人で88%を占め、第9波の年代分布と比べて70歳代の割合が22%から28%へ6ポイント増加した。
6. ワクチン接種状況では、65歳以上の中等症Ⅱ以上の方は、県の65歳以上全体と比べて、未接種者が多く(19%対6%)、7回接種者が少なく(22%対42%)、接種回数中央値も少なかった(5回対6回)。
7. コロナり患前の日常生活自立度は、何らかの活動制限のある人(パフォーマンス・ステータス1以上)が、約8割を占めた。
8. 重症化リスクが懸念され、ワクチン接種勧奨とされている基礎疾患等は、18人(9%)を除いて有しており、上位の疾患は、心疾患(高血圧を含む)61%、糖尿病24%、呼吸器疾患20%であった。がんなどの疾患やステロイド等の治療薬による免疫低下状態も19%を占めた。
9. 5類感染症移行後の新型コロナウイルス感染症も、中等症Ⅱ以上となる人の大部分は、基礎疾患があり日常生活の活動制限がある高齢者で、ワクチン接種回数の少ない人の割合が多い傾向にあるため、基礎疾患のある高齢者に対する接種の重要性は変わらないと考えられた。
10. 65歳未満の中等症Ⅱ以上の入院患者23人のうち、ワクチン接種回数が判明している12人中5人は接種回数が2回以下であった。また、65歳未満の基礎疾患等の上位は、心疾患8人、糖尿病4人、重い精神疾患・知的障害3人であった。 P13